

集団アセスメント 実施団体を募集

Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

NPO法人エッジでは、「ディスレクシアだと気づかれず静かに困っている子どもたち」の早期発見、早期支援を重視し、集団でアセスメントを行う事業に力を入れています。

「読み書きが苦手」なことで自信を失ったり傷ついたりしてからではなく、早期に適切な対応をすることで、自分に合った学び方を知り、本来の力を発揮できるようにすることをめざしています。

日本財団の助成を受け、2022年4月以降、複数回の集団アセスメントを実施し、効果的なアプローチについて検討を重ねてきました。

【集団アセスメントパッケージ】としてさまざまな団体に合わせて個別最適化したご提案をすることができます。

【集団アセスメントパッケージ】の内容（実施する団体によって内容は異なります）

①	教員・指導者への研修 （講師：藤堂栄子）	読み書き困難とは？どんな検査をして結果から何がわかるのか、どう支援したら良いのか
②	スクリーニング用の webアプリの提供	読み書きに関する10の質問に答えるだけで困難さへの気づきが簡単にできる。所属されている児童生徒全員にwebアプリの実施を行う。 （アプリ開発：東京工業大学 野原研究室 朱心茹）
③	保護者への事前説明 （講師：藤堂栄子）	アセスメント実施前「ディスレクシアとは、どんな検査をするのか、検査から何がわかるのか、実際の検査結果から何ができるのか」
④	集団アセスメントの実施	チラシの準備、人数分のアセスメントキット、当日のスタッフ、結果の配布等
⑤	教員・保護者への事後説明 （講師：藤堂栄子）	アセスメント実施後「検査結果の見方・解釈の仕方、検査結果から実際にできる具体的な支援について」

【2024年度 募集内容】

対象	教育委員会・自治体・学校・塾などの教育機関
人数	小2から中3までの児童（20名以上、要相談）
費用	日本財団の助成事業につき2024年度は無料
その他	説明会や打ち合わせを通じて各団体に合わせたカスタマイズが可能です。ご相談ください。
問い合わせ・申し込み	edgegroup.assess@gmail.com NPO法人エッジ 担当：樋口、岩田

アセッサー養成講座 J-AWARE (eラーニング)

講師：河野俊寛
認定NPO法人エッジ

読み書きアセッサー養成講座は、ディスレクシアをはじめとする、読み書きに困難がある子どもたちを支援する方向けのeラーニング講座です。約4時間の動画とテキストで構成されています。

さらに学びたい方には次のステップ「演習」（河野俊寛先生による「事例に沿った所見の書き方講座」）を受講することができます。

フォローアップとして年2回の事例検討や、エッジ式意見書の書き方講座などでブラッシュアップすることができます。

（対面orオンライン）

	講座内容
第1章	読みと書きの基礎知識
第2章	読み書きの困難とは
第3章	読み書きへの支援1(できるようにする支援・補助代替支援1)
第4章	読み書きへの支援2(補助代替支援2)
第5章	合理的配慮
第6章	アセスメント(総論)
第7章	アセスメント(URAWSS II・東京都教育委員会アセスメント・聴写)
第8章	アセスメント(集団実施アセスメントバッテリー・所見)
希望者のみ	終了レポート

お問合せは edgesodan@npo-edge.jp まで

アセスメント 配慮につなげる

1, 音声教材BEAM(文科省委託事業)

エッジが提供する【音声教材BEAM】は、**教科書を音声化**したものです。

正確な読み方だけでなくイントネーションや間まで直した音声の特徴。内容を理解するために使います。

2, 音声付きテストで合理的配慮を!

・小学校国語業者テスト(**光文書院**) 1年生~6年生までエッジが作成。

設問を**BEAMと同じ音声**で音声化

3, その他の音声教材

・音声教材はほかにも6種類! 特性と場所と成長に合わせて使いこなそう

光文書院様より

光文書院 では、NPO法人エッジ様にご協力いただきまして、
2024年度国語テストをご採択いただいた先生方に、テストの設問を読み上げる
「音声読み上げサービス」 をご提供いたします。

本サービスでは、先生がデジタル端末から読み上げ音声を再生してテストを実施することができます。また、先生から児童へ認証IDを配信することで、児童一人一人がデジタル端末で音声を再生することも可能です。

詳細につきましては、3月30日(土)のBEAM説明会でご案内いたしますので、ぜひご参加いただけますと幸いです。

音声教材BEAM
説明会
2024年3月30日



Peatixより申し込み
無料

